

オガサワラシジミ

Celastrina ogasawaraensis

チョウ目(鱗翅目)
セセリチョウ科

小笠原諸島

CR

環境省

CR

【形態・生態】

前翅長 15mm 前後。翅表は♂は広く濃紫色、♀は濃藍色で周辺の黒褐色部の幅が広い。高温期に発生する♀では濃藍色斑が消失する個体も見られる。裏面は白色。ほとんど斑紋がなく、後翅基部から内縁にかけて青緑色を帯びる。特異な斑紋と触角が非常に長いこと、分布域が異なることから国内の同属他種からは容易に区別できる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

主に山地の樹林に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

以前は普通に見られたようであり、集落周辺などでも記録されている。1980年代後半より激減し、すでに父島列島では絶滅したと判断される。その原因としてグリーンアノールによる捕食の影響や、アカギなどによる食樹の被圧などが指摘されている。現在、国、関係地方公共団体、専門家、地域住民などの連携により外来種対策、環境改善、監視活動などの保全事業が関係法令に基づき行われている。

【関連文献】

高桑正敏・須田真一, 2004; 白水隆, 2006.

(執筆: 須田真一)



ウスイロコノマチョウ

Melanitis leda ismene

チョウ目(鱗翅目)
シジミチョウ科

小笠原諸島

VU

環境省

【形態・生態】

前翅長 38mm 前後。クロコノマチョウに酷似するが、前翅表黒斑中の第3室の白斑は中央付近にあること、黒斑に沿って表れる燈色斑は翅端外縁側に広がらないことで区別される。翅裏の斑紋は変化に富む。小笠原諸島の個体は全般に小型であり、南西諸島とは別系統の個体群の可能性もあるが未検討。

【分布の概要】

小笠原諸島、南西諸島。本土でもしばしば記録され、一時的な発生を伴う場合もある。

【小笠原諸島における生息環境】

主に集落や農耕地周辺に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島では普通に見られたが、1980年代後半ごろより激減し、一時期ほぼ見られなくなった。グリーンアノールによる捕食の影響も知られるが、激減の原因は不明である。最近再び見られるようになった個体群は、安定的に生息する硫黄島などから飛来した可能性もある。

【関連文献】

荻部治紀ら, 2004; 白水隆, 2006.

(執筆: 須田真一)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

オガサワラセセリ

Parnara ogasawarensis

チョウ目(鱗翅目)
タテハチョウ科

小笠原諸島

NT

環境省

VU

【形態・生態】

前翅長 15mm 前後。翅表は黒褐色、翅裏は赤味を帯びた褐色。前後翅には小白斑がある。国内の近似種とは、小白斑の形や配置が特異であること、分布域が異なることで容易に区別できる。小笠原諸島からは同属のイチモンジセセリも記録されているが、後翅の小白斑の形や配置が全く異なる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

主に海岸付近の風衝草地に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島からは戦前の記録のみで、その後発見されていない。母島では各所で記録されているが、近年の生息状況は安定せず、ほとんど見られない年もある。その理由については不明であるが、台風や干ばつなどの影響も考えられる。成虫がしばしば発生地を離れた場所でも観察されることから、移動性は高いものと考えられる。

【関連文献】

荻部治紀ら, 2004; 白水隆, 2006.

(執筆: 須田真一)



【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は、次の文献に準拠した。

白水隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 学習研究社. 336 pp.

【関連文献】

苅部治紀・高桑正敏・須田真一・松本浩一・岸本年郎・中原直子・長瀬博彦・鈴木互, 2004. 神奈川県立生命の星・地球博物館が行った 1997-2003 年の調査で得られた小笠原の昆虫目録. 神奈川博調査研報 (自然科学), (12): 65-86.

白水隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 学習研究社. 336 pp.

高桑正敏・須田真一, 2004. オガサワラシジミの衰亡とその要因. 神奈川博調査研報 (自然), (12): 47-53.